

<「ケアニン」を廿日市市で上映する会 様>

上映日:2017/12/17(日) 場所:廿日市市民文化ホールさくらびあ 大ホール(広島県廿日市市)



実行委員会のみなさんとゲストの香川さん



会場の様子

上映会に500人を超える人たちが来てくれたことが最大の喜びでした

●上映会を開催するに至った経緯を教えてください。

まず、なにより主題歌を作詞作曲して歌っている香川裕光君が廿日市市の出身であり、のちに実行委員会のメンバーとなるOさんが、近郊の映画館で上映してもらえないかを模索しました。複数の映画館に問い合わせたりしましたが、どの映画館も予定はなく、前向きな回答もなかったため、ファンの中で署名活動をしたらどうかという声まで上がりました。

そのような声をfacebook上で知った、のちに実行委員会の代表者になるKは、かつて震災復興支援の映画を自主上映したことがあり、それならば、自分たちで上映会を開催したらどうかという提案をしたところ、廿日市市在住のファン5名が賛同して、6名で実行委員会を結成、準備を進めることになりました。

このように目的の主要なものは、香川君の作詞作曲した主題歌の映画を地元廿日市市で観たいというのが動機でしたが、介護の仕事の大変さや重要性をテーマとするこの映画を、超高齢化が進む廿日市市で上映する意義は大きいということも開催の目的となりました。

●実行委員会は、どのようなメンバーでしょうか？

香川裕光君のファンが中心ですが、その属性は、主婦、公務員、企業経営者、病院勤務、まちづくり活動など様々でした。

●協力の得られた団体はありましたか？
廿日市市、廿日市市教育委員会、廿日市市社会福祉協議会、西広島タイムズから後援をいただきました。役所OBが二人いましたので、公的な団体へのネットワークはありました。映画の趣旨を説明すれば、後援を断られる団体はありませんでした。

収支を取るためには、協賛金を出してくれる協賛者集めが最も苦労しました。この点も、知り合いの企業さんに1社1社直接説明して理解いただき協賛にご同意いただきました。(協賛:メリィハウス西風新都、居宅介護事業所くぬぎの森、株式会社新生機械、医療法人ハートフル廿日市在宅総合ケアセンターあまの、社会福祉法人三篠会ふれあいライフ原、かがわのわ有志)

また、廿日市市の市民ホール(大ホール、1,100人収容)で開催しましたが、市が共催していただくことになり、ホールの使用料が無料にいただけたのが、とても助かりました。

●資金はどのように捻出しましたか？

上映会の来場者が少なくとも収支が合うように、協賛金を10万円集めることを目標にして取り組みました。結果として15万円の協賛金を集めることができました。

●地域へどのように告知しましたか？

チラシとポスターを作成して、知り合いの事業所や後援をいただいた施設に配付または貼付してもらいました。

また、地元のフリーペーパーにも情報提供して告知記事を掲載いただきました。最も効果があったのが、地元の「中国新聞」に取材してもらったことです。香川君への取材でしたが、映画も取材いただき、その後問い合わせが一気に増えました。

●上映会当日の様子や、上映会開催の感想を教えてください。

鑑賞された方々からは、いい映画だった、自分のことや親のこととしてすごく考えさせられたという感想が多かったと思います。中には、上映会に来られなかった方から、是非観たかったという声もいただき、上映会もしてみたいという人もいました。とにかく、上映会に500人を超える人たちが来てくれたことが最大の喜びでした。上映会が終わって帰られるときに、「よかった」「涙が出た」などと感想を言ってくると開催してよかったと思いました。

●今後、上映会を開催される主催者の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。
自主上映会は、多くの方の協力があって初めて成功するものと思います。まずは、実行委員会等のコアのメンバーが、その思いや上映会の趣旨をしっかりと協力してもらいたい方々に伝えることだと思います。

ご担当者:
「ケアニン」を廿日市市で上映する会
川本達志さん